議會に出た冷水線

筑豐重要の運炭線十三哩

既に衆議院委員會を通過す

今期議會に提出された鐵道新設豫定線の内重要視されて居る關係地方の分は筑豐線と九州本線とを連絡する筑豐線長尾驛を起點とし九州本線原田驛を終點とする延長十三哩の新線である右新線は目下衆議院に於て廿八名の委員附託となり屋々委員會を重ねたが其席上石丸鐵道院副總裁は同線の大要につき『同線は主として運炭上の必要に基くもので豐州線又は筑豐港線の炭田關係により此地方より九州本線の最も近き部分に連絡せしむべく計畫したものである即ち今日の處では筑豐方面の石炭は一先づ折尾から博多を經て原田から鳥栖に至り一は鹿嶋線に一は長崎線に送られるのである此れは非常に不便であるから飯塚から長尾を經て原田に通ずる線路を豫算に計上したのである」と說明して居るが委員中には、赤間代議士が加はつて熱心盡瘁の結果滿場一致委員會を通過し更に本會議も無事通過の豫想である赤間代議士からの通信である而して豫算通過の上は大正十一年度から向ふ六ヶ年で其經費四百五十萬圓の巨額である同線路は先づ筑豐線分岐終點長尾驛を起點とし嘉穗郡上穗波村平塚、北古賀、長尾の國道に沿ふて南上し內野村に入り同所にて古來の難關を經せる、冷水峠の工事は頗る難事業と目せられ延長約一哩の大隧道を穿ち直に筑紫郡に出で山家村から國道に沿ふて針摺峠に出で二日市附近を通して更に終點原田驛に通ずるものである途中停車場の位置等は未だ不明であるが長尾より內野、山家、針摺二日市附近の模樣にて此の線路完成の上は從來鞍手、嘉穗、田川地方の貨客は筑豐線を廿餘哩にて折尾驛に出で更に廿餘哩を經て博多二日市に向ひ恰も三角型の二邊を迂回する有樣であつたが新線路に依れば時間と經費の上に非常に便益あつて三方劍山を以て圍繞された鞍手、嘉穗地方が初めて直接に他市郡と接觸を得又無數の炭山より掘出される石炭は容易に運搬されるべく同地方交通上に一新生面を開くものである

本日作業を開始するか

不穩の形勢あれば休業繼續

製鐵所當局は語る

七日夜勤より八日晝夜勤（九日午前六時迄）休業せる製鐵所は果して今九日より作業を開始するや否や昨八日午後三時半中川次長を訪ひたるも差支ありて面會せず南部副參事に面會を求めたるに曰く『熔鑛爐は輕々しく作業を中止するに拘らず作業中にして其爲め關係工場も休業せや八日職工一千九百名人夫七百名勤務中にして何等異りたる事なく九日午前六時より一般工場の作業を開始するや尙又休業を繼續するやは同時刻の形勢によつて決定せらるべく不穩の擧動に出る事を豫測せらるゝ以上は引續き作業を中止すべく作業中といへ共休業をなし職工を退出せしむる事あるやも知れず又職工側の要求に對する示達に對して製鐵所の意のある處を了せざれば最早執るべき道なく場合に就ての方針態度は未だ研究し居らず』

七日夜勤より八日晝夜勤（九日午前六時迄）休業せる製鐵所は果して今九日より作業を開始するや否や昨八日午後三時半中川次長を訪ひたるも差支ありて面會せず南部副參事に面會を求めたるに曰く『熔鑛爐は輕々しく作業を中止するに拘らず作業中にして其爲め關係工場も休業せや八日職工一千九百名人夫七百名勤務中にして何等異りたる事なく九日午前六時より一般工場の作業を開始するや尙又休業を繼續するやは同時刻の形勢によつて決定せらるべく不穩の擧動に出る事を豫測せらるゝ以上は引續き作業を中止すべく作業中といへ共休業をなし職工を退出せしむる事あるやも知れず又職工側の要求に對する示達に對して製鐵所の意のある處を了せざれば最早執るべき道なく場合に就ての方針態度は未だ研究し居らず』

一方八幡市內にては同志會の夜勤の部晝會式あり勞作業中止にて殆んど全部の職工散在するより萬一を慮かり警官憲兵の嚴戒物々しかりしが勞友會員と同志會員との間に市中街路にて衝突口論をなさんとするもの數々に現はれんとし一方入所作業中の職工家族が何者にか危害を受けつゝありなどの蜚語を放つものありて市中の一部製鐵所東門附近は物々しき光景を呈したるも警戒は嚴にして無事なるを得たり

國粹會起ち上る

九州代表者の一人

製鐵所並に職工側訪問

床次內相の提唱によつて全國俠客を以て組織されたる大日本國粹會は四日京都支部發會式を擧行したるが製鐵所今回の事件を聞知するや九州代表者小倉市外砂津石野驛第氏は急遽歸倉し八日午前製鐵所に來り直に八幡署に赴き警察部長、野村八幡署長に就き製鐵所盟休に關し詳細聽取する處あり八日午後製鐵所を訪ひ兩三日滯在する由又筑豐派出工廠長山崎藥吉中將は七日午後來幡し製鐵所の狀況視察の後八日午後零時廿分發列車にて佐世保へ向へり、